

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

一ツ橋中学校 中学校区	校番 51	福山市立長浜小学校
最終更新日	2024年(令和6年)2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 めざす子ども像の実現に向け、主体的に学ぶ取り組みを着実に進めている。授業では教職員が熱意を持って、工夫をしながら全力で取り組んでいる。学校と地域とが連携した教育活動を共に進めていきたい。	児童生徒の現状 「探究的な学習」の研究を校区で推進している。『とにかくやってみる』『本物・現実を見る』『自分事として考える』を視点を持った学びづくりにより、児童生徒が自ら探究する姿が見えるようになってきた。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	「学びに向かう力」「課題発見・解決力」「対話する力」「自己・他者理解力」「自己効力感」 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身に付けている。 小中合同の「自ら考え学ぶ授業」を実践するための研究授業を通して、全ての児童生徒が主体的に学ぶことができる学校をめざす。 探究的な学習の充実に向け、小中で連携して、9年間のカリキュラムを構想するとともに、「子ども主体の課題設定」「机からの脱却」(外部連携を含む)を視点にした取組を行う。
--	--	---	---

III 自校

ミッション	地域に愛着を持ち、自己を高め、友達とともに伸びていく力を培う	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	学びに向かう力	課題発見・解決力	自己効力感	
学校教育目標	自ら学び 夢に挑戦	めざす子ども像	低学年	目標を決め、自らを振り返りながら取り組む。	友だちの考えをしっかりと聞き、自分の考えをもつ。	友だちと関わり合いながら、自分のいいところに気付く。
現状	<p><児童生徒> 自己評価による「自己効力感」の肯定的評価は、昨年度と比べ、伸びが見られる。また、夢に挑戦」の取組を通して、児童の自己指導力を向上させることができている。しかし、友達との関わりの中で、思いを上手く伝えられず、言葉で相手を傷つけるなど、相手意識のある行動や言葉がけが難しい児童もあり、より細やかな支援が必要である。</p> <p><授業> 「主体的に学ぶ子ども達」を目指し、授業改善を進めた結果、「自ら問いを見つけ、学習に取り組むことができた」と答えている児童は81.4%、「学びはおもしろい」と回答している児童は94.8%である。子どもの「知りたい」や「分からない」を大切に授業づくりの成果であると言える。しかし、学び続ける力を育成していくため、児童が様々な方法で探究していくための学び方、学びの場を充実させた授業づくりに取り組む必要がある。</p>	めざす子ども像	高学年	目標を決め、自らを振り返り、学び続ける。	自ら「問い」を見つけ、自分なりの工夫をしながら課題解決をしていく。	自分の良さ、友達の良さに気づき、自分のやりたいことに挑戦する。
		研究	テーマ	児童が「問い」を見つけ、多様な方法で探究していく授業の創造		
			内容等	～振り返りや生活との関わりを活かした教材づくり・多様な学びが選べる環境づくりを通して～		
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 児童自らが「問い」を見つけ、様々な方法で探究していく授業 教師は児童が自ら環境をつくり、学びを支えている授業 児童の振り返りを活かした学習展開が行われる授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立長浜小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成総合評価	改善方策	
5	○自ら考え学ぶ授業の推進	★	継続	○児童が「問い」を見つけ、多様な方法で探究していく授業実践	○児童の振り返りや生活との関わりを活かし、子どもが解決したくなる探究的な学習単元づくりを行う。	○「多様な方法で探究することができた」と感じる児童の割合80%以上 ○学力を伸ばした児童の割合前年度以上	○児童アンケートの結果 82.5% ○学力を伸ばした児童の割合 67.6%	3	3	○「問い」や「ことば」にこだわった指導を行う。 ○学びの基礎である知識・技能の確実な定着を図る。 ○低・中・高部会をもち、授業づくりについて協議できる場を設定する。	○児童アンケートの結果 85.2% ○総合的な学習の時間を中心に探究的な学習の単元づくりを行った。各学年での基礎的な知識・技能の定着を図っている。	3	3	3	○児童が自分事としてとらえることができる「問い」のある単元づくりを行う。そのため、知識・技能の確実な定着を図るとともに、身の回りの生活や経験と関連付けながら学ぶことができるカリキュラムを編成し、単元開発を行う。
4	○自己指導能力を育む教育活動の推進		継続	○自己を認識し、自分のよさが分かり、夢や目標を自分で選ぶことができる児童の育成	○「夢に挑戦」の取組において他者を意識した目標設定を行い、実践できる児童の育成を図る。	○「自分には良いところがある」「目標や夢を持っている」と感じる児童の割合80%以上	○児童アンケートの結果「自分には良いところがある」75.6% 「夢や目標を持っている」83.9%	3	3	○縦割りの班掃除や学級の係・当番活動などを通して、自分や他者の良さを見つけ、伝え合う活動をする。 ○校内発表会で全校の発表を聴いて、他学年の良さを紙に書いて伝え合う。	○児童アンケートの結果「自分には良いところがある」74.0% 「夢や目標を持っている」87.8%	3	4	3	○夢に挑戦の取組を児童集会で紹介し、互いのよさに気づき認め合う集団作りを行う。 ○行事ごとに目標を設定し、振り返り、自分でサイクルを回す力をつける。
4	○子ども主体の健康・体力づくりの推進		継続	○自分の健康・体力づくりの課題に気づき、自己目標を決めて取り組んだり振り返りたりできる児童の育成	○メディアの視聴時間削減の自己目標を立て実践できる児童を育成する。 ○体力テストで課題になった項目の改善を図る。	○生活ふり回りカードによる個人目標達成の割合85%以上 ○体力テストで課題になった項目の改善率70%以上	○生活ふり回りカードによるメディアについての個人目標達成の割合 87% ○体力テスト結果より本年度の課題は、握力、上体おこし、50m走となった。	3	3	○保護者・児童への再度声かけを行い、メディアの視聴削減の目標達成を増やす。 ○体力アップカードの内容を見直し、メディアの時間と関連させながら体力アップの取組を行う。	○生活ふり回りカードによるメディアについての個人目標達成の割合84% ○課題であった握力、上体おこし、50m走の再テストでの改善率72%	3	3	3	○保健・給食委員会で児童に対してメディア削減の啓発を行うとともに、保護者への啓発も行い、児童自身が健康に関心をもち、体力づくりを進んで行えるように取り組む。 ○体育科の授業づくり、休憩時間の体力づくり、体力アップカードでの取組を継続的にい、体力の向上をめざす。
2	○働き方改革の推進と教育の質の向上		継続	○教職員が元気・笑顔で勤務できる環境の充実	○一人一人が自らの個性や能力を発揮できる校務分掌の配置を行う。 ○教職員が互いに相談し合い、支え合う組織作り	○「個性が認められている」と感じる教職員の割合90%以上 ○「授業づくりを行う時間が確保されている」と感じる教職員の割合90%以上	○「個性が認められている」と感じる教職員の割合 100% ○「授業づくりを行う時間が確保されている」と感じる教職員の割合 66.7%	3	3	○教職員が切磋琢磨しながら支え合い、協力できる組織作りを行う。 ○業務内容や年間計画の見直しを行い、見通しを持った校務運営ができるような仕組みを再構築する。	○「個性が認められている」と感じる教職員の割合 87.5% ○「授業づくりを行う時間が確保されている」と感じる教職員の割合 100%	4	3	4	○教職員の業務量や進捗状況に応じて、分担を見直し、教職員の教材研究に係る時間を確保していく。 ○教職員が切磋琢磨しながら支え合い、協力できる組織作りを引き続き行う。

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。